



4 不自然な独り言

古本屋で弟の欲しがっていたマンガの本を見つけた僕は、弟の喜ぶ顔を思い浮かべ、勢いよく自転車を飛ばして家に向かった。

交差点に近づいていった時、前方を白いつえの男の人がゆっくりと歩いているのが見えた。「目が不自由なんだ。」

と、思った途端、いろいろなことが頭をよぎった。ちょうど、つい先日、総合学習で「バリアフリー」について調べたばかりだった。

エレベーターの点字の表示や、歩道の点字ブロック、その他、目の不自由な人のためのバリアフリーの工夫はいろいろあることがわかった。でも、本当に目の不自由な人が街を歩くのには、まだまだ不十分なのだろうと気になっていた。さらに、三週間前、盲導犬についてのテレビ番組を見た母が、

「目の不自由な人が横断歩道を渡るとき、信号の色は車の流れで判断するしかないんだっ

て。車や人の多い所なら気配は感じやすいだろうけど、閑散としている所を渡るのは不安でしょうね。」

と話していたことを思い出した。

横断歩道の歩行者専用信号が、点滅を始めた。と、同時に、僕の胸もドキドキし始めた。目の不自由な人は、横断歩道の前で立ち止まった。僕は自転車を、その人の少し後ろに用心深く止めた。歩行者専用信号は点滅をやめ、赤に変わった。僕の心臓は、ますます速く脈打ってきた。片側二車線の広い道路。そのわりには、時間帯のせい、車の通りは少ない。

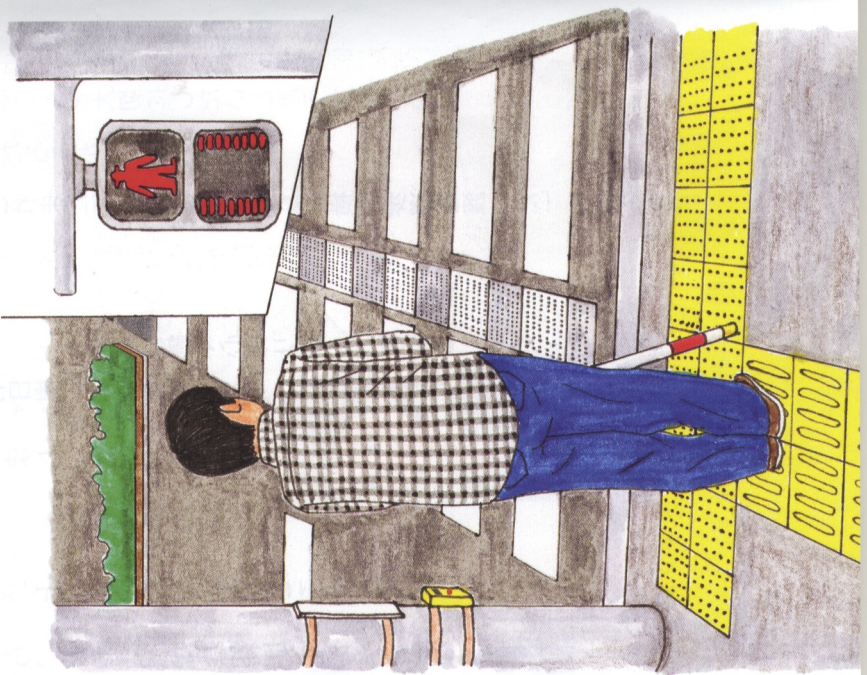
「赤ですよ。青になったら一緒に渡りましょう。」

そう言ってあげられたら、この男の人はどんなに安心するだろう。でも、頭に浮かんだその言葉は、速度を増して脈打つ血液と一緒にあってグルグルと僕の体内を駆けめぐるだけで、どうしても口から出てこない。

自分自身に腹を立てながら、僕は、自転車をちよっとバックさせてから、勢いをつけて少し斜めになっている縁石の所まで自転車を動かし、キューツと音を立ててブレーキをかけた。信号が赤であることをアピールする苦肉の策だった。



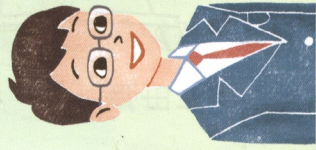
「思いやり」とは、
どのようなものだろう。



やってみよう

1 ペアになって、次の場面を演じてみましょう。

・バスターミナルで、お年寄りが困った様子で周りを見回しています。さあ、勇気を出して声をかけてみましょう。お年寄り役の人は、困っている理由も言ってください。演じたあとに、感想を書きましょう。



通行人役

どうしましたか。



お年寄り役

どのバスに乗ればよいかわからなくて……。

演じた感想

2 あなた自身に、他の人の助けを借りたかったけれどお願いできなかつたという経験はありませんか。それはどんな状況で、どうしてお願いできなかつたのでしょうか。グループで話し合ってみましょう。

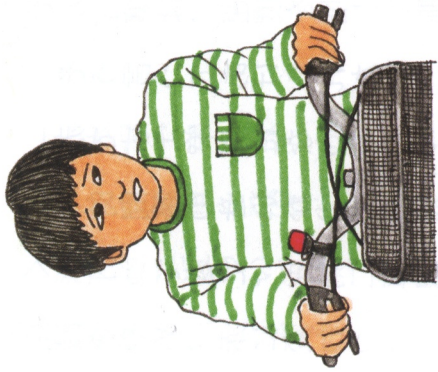


実験室の場所がわからなかつたけど、きけなかつた。



どうして？

3 思いやりの心とはなんでしょうか。深く考えてみましょう。



左側から来た一台の自転車が、右折していった。そして、信号は青になった。いつもなら青信号に変わるやいなや走り出しているはずの僕は、まだ止まっている。勇気を出してペダルを踏み込むと同時に、僕の口から出た言葉は、

「さ、青になった。渡ろうと。」

だった。不自然な独り言を言って、これまた不自然にゆっくりと横断歩道を渡った。僕に少し遅れて、あの男の人も渡り終えた。

僕は少しホツとしながら、ささやかな親切すらできなかったホロ苦さを感じた。上り坂で自転車をこぎながらつぶやいた。

「青ですよ。一緒に渡りましょう。」

文・森明日樹（生徒作文）／『ごどものきもち
—未来に続く心のりしー』による

学びの道



- 1 「僕」はなぜ「不自然な独り言を言って、これまた不自然にゆっくりと横断歩道を渡った」のだろうか。
- 2 あなたが「僕」の立場だったら、どうするだろうか。
- 3 「思いやり」の気持ちを伝えるとき、どんなことを大切にしたいと思うだろうか。